

来週の市場とレート予想

	11/6(月)	11/7(火)	11/8(水)	11/9(木)	11/10(金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	+ 1,200	+ 1,000	+ 1,000	ト ン	ト ン
財政他	△ 24,100	+ 2,000	ト ン	△ 3,000	△ 9,000
資金需給	△ 22,900	+ 3,000	+ 1,000	△ 3,000	△ 9,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(10年)				交付税特会借入・償還 国庫短期証券発行・償還(6M)
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,900 CP等買入 △ 200 国債補充供給 + 400				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,500	国債買入 + 7,100 短国買入 + 1,000			
(日本)	日銀金融政策決定会合の議事要旨(9月20、21日分) 黒田日銀総裁の講演(名古屋市内)	毎月勤労統計(9月)	日銀の布野審議委員講演(宮崎市内) 景気動向指数(9月) 消費活動指数	日銀、金融政策決定会合の主な意見(10月30、31日分) 国際収支(9月) 機械受注(9月) 貸出・預金動向(10月)	マネーストック(10月) 第3次産業活動指数(9月) 国債・借入金・政府保証債務残高(9月末)
(海外)	米 NY連銀総裁講演 欧 ユーロ圏総合PMI(10月、改定値) 欧 ユーロ圏財務相会合(ユーログループ、ブリュッセル)	米 求人件数(9月) 米 消費者信用残高(9月) 米 トランプ大統領、韓国訪問 欧 EU財務相理事会(ブリュッセル)	米 トランプ大統領、中国訪問	米 新規失業保険申請件数(前週分) 米 卸売在庫(9月) 欧 ECB経済報告発表 欧 欧州委員会、経済見通し発表	米 ミシガン大学消費者マインド指数(11月、速報値) 米 財政収支(10月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.050 ~ △0.025
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.080

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初369兆4,100億円で始まり、31日には国債買入や短国買入などを主因に370兆円台まで増加した。その後は11月2日に税揚げ等を受け減少し、369兆6,800億円となった。
無担保コールON物加重平均金利は、週初に地銀業態・証券業態を中心に調達意欲が底堅く推移し△0.04%となったが、月末31日には調達意欲が弱まり、△0.046%となった。1日以降の同金利は△0.044%であった。
ターム物は、1W~2Wのショートタームを中心に△0.04%台~△0.03%台での出合いが散見された。
10月30日から31日に行われた日銀金融政策決定会合では、金融政策の現状維持を決定した。また同31日に発表された展望レポートでは、17年度の物価見通しについて、前回7月の+1.1%から+0.8%に引き下げた。
来週は、国内では名古屋市内での黒田日銀総裁講演(6日)、海外ではトランプ大統領のアジア歴訪(5日~12日)、ECB経済報告(9日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.005 ~ 0.000
TDB 3M	△0.170 ~ △0.250
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約5,740億円で、週間償還額の約3,000億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。連日、商社・鉄鋼・建設等の業態でまとまった額の発行が見られた。発行レートは、ほぼ横這い推移となっており、マイナスから0%近辺での出合い。来週の償還額は、3,300億円程度となっている。一般事業法人の資金調達ニーズは旺盛で、償還額を上回る発行が予想される。発行期間については、先週同様に一般事業法人で12月末までの発行、その他金融等で年越えの発行中心となるだろう。
発行レートは、引き続き浅いマイナスから0%近辺での推移を予想する。7日に、CP等買入オペが2,000億程度オフアされる予定。

<TDB>

1日に行われた国庫短期証券3M第718回債の入札は、最高落札レート△0.1842%(前回債△0.1898%)、平均落札レート△0.1897%(同△0.1961%)と前回債からレートがやや上昇した。
週末のセカンダリー市場は堅調な地合。3Mが△0.21%程度、6M、1Yが△0.19%程度と、いずれも入札水準よりも深いマイナス圏で出合いが見られた。
来週は8日に6M、9日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.105%~△0.11%近辺から始まったが、以降レートは大幅低下。2日受渡しでは△0.10%台後半の出合いも一部見られた。TDB3Mの発行日である6日受渡しも上昇は限定的で、△0.13%~△0.15%の水準。週末は△0.15%近辺の出合いが中心となった。
SC取引では10年347回債、348回債のbidが多く、347回債は概ね△0.10%台半ば~△0.20%近辺。348回債は週初△0.20%台後半~△0.30%台半ば、入札日前日は△0.40%台半ば~△0.50%近辺で多く取引された。その他2年380・381回債、5年131・132・133回債、10年335・336・341・342・343・344・345・346・347回債、20年161・162回債、30年55・56回債、40年10回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。